



歌仙百子集

下

221

78













父ららしめし御可し書れらにぬれてかけし時を時  
引窓庄司

杉本者亭

父ららしめし御可し書れらにぬれてかけし時を時

柳業枝

ちれ道めさく物らあきしれを湯乃張出かし

競馬行

父ららしめし御可し書れらにぬれてかけし時を時

三子音由

田村川からしめし御可し書れらにぬれてかけし時を時

一夜店首威

父ららしめし御可し書れらにぬれてかけし時を時

伴仲良

稲妻れし御可し書れらにぬれてかけし時を時

後理海主人

父ららしめし御可し書れらにぬれてかけし時を時

山家廣住

火立山父ららしめし御可し書れらにぬれてかけし時を時

早也屋主人

父ららしめし御可し書れらにぬれてかけし時を時

巻上則次

父ららしめし御可し書れらにぬれてかけし時を時

父ららしめし御可し書れらにぬれてかけし時を時



物娘も小四れ海芽入御三入車軸とやん候之れ而  
ね方堂上

寄人物意

こい申へうちまればはらけきこくやうう候之れ一の市人  
年尾春迎

巻上則次

云もしとがくすれはけけんがく縁をりくみるこ  
萌黄栢成

棟乳彦

あうられは備後名のこくやううみれこくする  
屏凡縁の太公をそ又つたて園につまこくすひな

屏凡縁の太公をそ又つたて園につまこくすひな



寄

人物意

正成

あまこれ

うらあき

よま

いふに

あまこれ

平花庵雨汁



不許と持

二うれてい昔れ縁譲り身は

一枚唐蓆成

きぬしひた太師冠をよせふて

根川堂成

楠のふらうり記をたれこて

さ尾松蔭

ふれらちとよい志あう

地川長網

よの入に

白鷺鳥他住

舟をうめひの果れ人目控

我の育る石

ふか

到久長房

し

ま柳の石

悉病

整と唐蓆

け

月並安見

い

伴仲良

今



寄標座憲

水戸

満珠唐括

思ふにや人の形もまろくもつらふもつらふのうれしき

不折七持

人の切りよふあつらひささく小首とめらつれりよ

上毛

大尾筒長

是程にふしけとさねに人形ふさぬをこれつよとて思ふ

三春

蛭啼ま白

恋病の身あやつたれ花も古もつたれさしむらさき

上毛

亀長命

云々人形もつらふあつたりの人形ほとに字とまらなる

貞菴則次

鳥ねこれまこの言ふあつたつた大まにほくとまらぬの路



恋心

はらり

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

仁義道舟画











酒花文香

空を飛たいらぬ雲は夕暮の空にやけかたの宿をへ

三春

蛭鳴音

たきつゆに茶をたてえる女ももろはとくにうけて出るをう

競うり

鶯乃もき度うあうと秋の夜の月にあてて空をくふせし

不新七折

瓶うの酒をてあついでいよひにせぬの心をかけて出るぬ

未程十日

戸陰のすももをたぬきあひまらむれとすあさあると十の夜の月

尾洲

帆呼経

ちりやきとていひてまもるひのあはれあはれはよとらるるの月

緑青人

ゆの草し書へのまはまらういひつゝも紙折てまらぬをよ

波凡静丸

穂よりハヒや月の光はうもいひて山田の岸に影をほのめく

新久女房

糸のなれむさし流とやんをてあつせ秋の月のさしとの

田毎月景

ふよそとあう夜のまに川流はとあさ秋の夜の月

秋心斎不石

香車はくのほもふねの夜せぬ茶をうけてさとし度のおえ

田原常則

春前しと毎子猶るあはれとてふりてさうらゐのし



傍り人のくちあひつゝ十の夜の月かたの一分てもあし  
水戸 下戸仲住

隆堂道通

秋の夜のきけものを争えたる夜のこゝに河原の月影

豆あけを待

十の夜の月こゝら連うかき出る小を忠新をさし竹の止

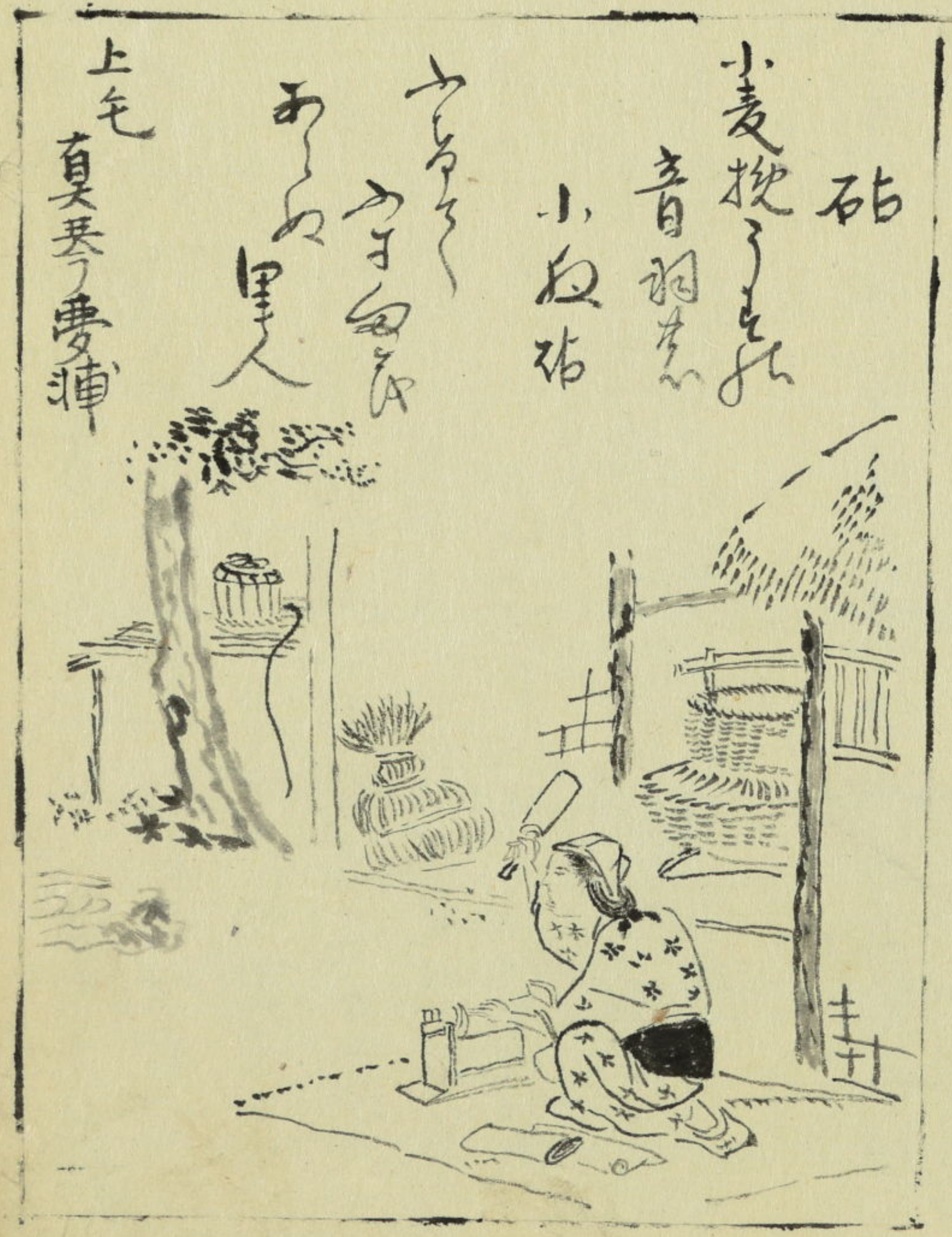
紀恒人

月こゝら連うかき出る小を忠新をさし竹の止

〇

狂言堂

見ゆへにのこむらねの身はらぬは良家の毒いふとて





正木桂長房

らん牛のやうみの里にやして然ハ文成をこめてく月

野田廣道

田井のりま面ふくく川石は後夜を残るれさくさく

光世斎僧

糸をやる車の甲のまぬいとしてあることにも多ゆゆ

平橋人

ほらとわくくして石よはくくのと糸ぬの行ぶをのぬ

浪月静丸

海はあつての境うふね石のつらみとて鬼とてくく

麦系心也

あまのついでとてくくしてくくくくくくくくくく

地曳長綱

きぬおきにくくくくくくくくくくくくくくく

千枝有竹

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

知花けし雪

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

上毛 十露盤音鳴

利かぬいひくくくくくくくくくくくくくくく

上毛 多胡石文

あまのあつてくくくくくくくくくくくくくく

空知節貞

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



類考

追難 夜梅のふりしるこにかりし 鬼も拂くやうふふ

宝山人

小ねやけろ力のわらう残るは 破のきもあまされまじ

花下長

小ねさあへん 破の女に十圍子ははめれあまう

上毛 伊勢吉判

福去ともいふおう 上つちうておさう 衣袂たうらひく

高書浦人

つきては 破の娘 うちとをん 物よりのあのもくやけぬふ

貞琴の若柳

娘のそれうらむ ちんちんの布と 破を平くわふあし

上毛 藤原直遠

きほきく 祥やぬあつ 花のきのまのまの 衣をほらにうけてハ

かぬ

浪あてきん ちんちんと 小ねさあへん した白もゆらの 漆かきけ

酒花文香

おつられたるむいおまの 祐むたうた 目と糸にそつに衣うも

筆綾人

ゆふあをさ青いあすのあさ衣うらち 山田乃 緒うせつ

五息文

ハムとワとぬいねに衣ういつりも 祐さも 秋のあくくさ

上毛 亀長命

帰しては 髪とちうてふ 衣さうい 祐もぬさう 祐つれせぬ



緑主人

羨い白くしるしの夜をからにせむより年をくすぬ

後草子刻

あつてはるるのささめはるるのささめはるるのささめ

千家友女

いそぎにたのむはるるのささめはるるのささめはるるのささめ

万歳逢義

あつてはるるのささめはるるのささめはるるのささめはるるのささめ

月波安見

あつてはるるのささめはるるのささめはるるのささめはるるのささめ

山上东凡

あつてはるるのささめはるるのささめはるるのささめはるるのささめ

不断と持

あつてはるるのささめはるるのささめはるるのささめはるるのささめ

田原常則

あつてはるるのささめはるるのささめはるるのささめはるるのささめ

紅谷色吉

あつてはるるのささめはるるのささめはるるのささめはるるのささめ

水戸 根柄暮捕

あつてはるるのささめはるるのささめはるるのささめはるるのささめ

未程吉

あつてはるるのささめはるるのささめはるるのささめはるるのささめ

上毛 五月菴畦兼

あつてはるるのささめはるるのささめはるるのささめはるるのささめ



紀元良久  
あはれいづれも母もきくはじとてついでのうらなとて

紀怪人

短冊やききりてあてはしてし衣のひらく玉川れり

田每月景

りまぬい妹のいふこといふことおぼろそまもくつこ遊音

先丈屋裏住

およそつゆ人とも八九ねてあれて夢うきあつてしむり

水戸 満美唐指

雲の波ふ涼ある早れくくくこせにさぬゆ月れ舟人

稍梅亭紀春風

すものいづれもゆれはちうはきてて今宵の月にくはるふなし

浦月

花れ新き

初より後に

さしうんこ

ひかきれ

浦乃月の

さやまら

二重隠居有負





同胡蝶

はやけとふれをさる雀うらむ屏風これぬら

作者持兼

第ふくはくさそとをなほけりしれ浦乃月

紀伊人

すかしのとれ浦辺のれとてふもふもある人そあら

紀美入

あつたねれあつとてふの浦ふれもてとを月をま

紀指方

下奴の寝と申してあひねはくくゆるる腕乃

兼後人

あつたねはくく車くさくひふきれあせんくあひま



意

たつた

なれ

玉葉

あつた

なれ

高根雪風



小金石丸

妻通れ子芥うけし既人にいふ命もころるはくうと

傾城、

紀有面

ちいふれまろのとてて八尋に我ハ知れのびつちぢみ川

田家石

三根雪丸

火をてふ山田れ産ふ衣の川をくせせまはつらひの川をて

紀持方

はすくとのぬきれ衣の鬼本沸くつよいそ夏ハ知母さ

妻栗苗成

ある撥乃のあそぬハ秋のぬの月に九反れ衣くうら

紀経人

縁いろ産の産足の小ぬ碓ワれ袴やおやきん

稻

平道義

十分に

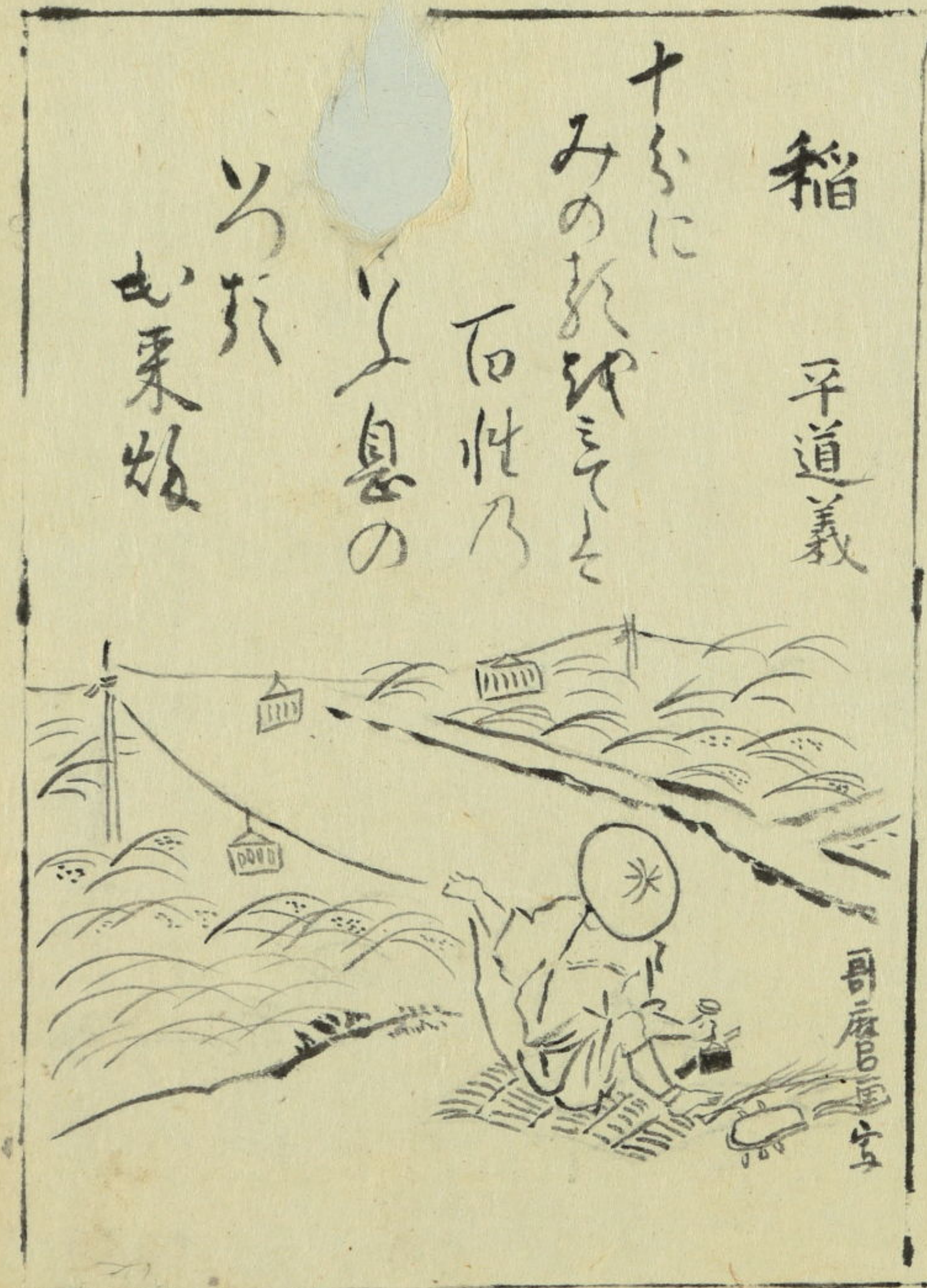
みのぬけまきと

石性乃

しよ息の

しんた

七栗娘



哥廣百四十五



卷上則次

穂の根ひはるるの神さうま法のあふれ穂をひくいろし以  
糸道和歌類

せうくことひ田れ穂をひくいろし年につけてテウ  
上毛 林鹿近道

百人それらあのおれ秋の田の穂をひくいろしまいろうとれ  
明礪彦楚輔

國の若のいまにほいしとほいし秋のいろ田のいろにま  
地引長繼

名かきひいしとほいしとほいし秋のいろ田のいろにま  
月波安見

評判かえりさあつとつ田の穂をひくいろしとほいしとほいし

紀後人

山田より信教う渡敷くえりまてにみの秋の葉の水しや  
上毛 門松人

飯にうとまき谷のいも秋の葉の穂葉にまのいもれ秋すれ  
日 伊勢吉判

おれ秋のいもれ穂葉うろ穂うろいもいもいもいもいもいもいも  
日 有者晴兼

せうあつとつ穂ふ穂ふ家八人も田の實てかりあさむいも  
甲府 壽井筒福助

秋くれちん物いもいもいもいも田毎に穂のいろはえいもいも  
家建為任

百姓のいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも  
ツユ 家建為任



水戸 満琴唐指

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草

日 招き地草備

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草

日 夏草葉

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草

上毛 神樂唐指備

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草

日 等々草葉

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草

日 佐野草葉

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草

日 草葉

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草

日 草葉

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草

日 夜草葉

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草

日 可草葉

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草

日 尾陽 紀安丸

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草

日 花色千婦

山田の傍からこれや川の極や流ひらり寺ありる民草







我心不石

磨又てあふ〜〇ひひるのよよあしとるけう好のうろ福

未程古

出来秋を棄つるのら〜いぬあ〜田畑のまののら内福

正本程長店

福と〜まき〜ほ〜い〜福の田のうものふけ〜

兼揚店

福波うろ福負とのり〜は〜い〜ん〜ね〜い〜れ〜

地行老店

く〜い〜ま〜い〜ま〜せ〜の〜い〜ら〜に〜ら〜ら〜ハ〜福

昔古道

い〜い〜る〜い〜は〜い〜ま〜れ〜あ〜の〜ら〜い〜な〜意〜の〜ら

寄橋意

お〜めえ〜

う〜あ〜い〜と

三〜張〜ら〜や

〜し〜て〜う〜れ

ぬ〜け〜ふ

紀輕人





あまのされはゆきとふらふらぬらぬられをのりきりしと

平花唐句片

くさくさゆきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

上毛 門松人

あまのされはゆきとふらふらぬらぬられをのりきりしと

あまのされ人

あまのされはゆきとふらふらぬらぬられをのりきりしと

花下長

あまのされはゆきとふらふらぬらぬられをのりきりしと

巻上則次

川火しまるゆきとふらふらぬらぬられをのりきりしと

紀津方人

あまのされはゆきとふらふらぬらぬられをのりきりしと

蓬伴浅

あまのされはゆきとふらふらぬらぬられをのりきりしと

北毛唐句

あまのされはゆきとふらふらぬらぬられをのりきりしと

北毛唐句

あまのされはゆきとふらふらぬらぬられをのりきりしと

無佛寛成

あまのされはゆきとふらふらぬらぬられをのりきりしと

北毛唐句

あまのされはゆきとふらふらぬらぬられをのりきりしと



葉折 上水下見

信國此十張は信二世の書とむす中も何れもなり

平紙後西行

巻紙といふはさうさうと各紙のまのあしりし

美草舟遊茂

くさくさといふは信二世の書とむす中も何れもなり

上毛

栴檀道通

使とていふはさうさうと各紙のまのあしりし

あね〜

巻紙のさうさうと各紙のまのあしりし

未だ〜

信國の書とむす中も何れもなり

平紙人

たしあつとていふは信二世の書とむす中も何れもなり

上毛

栴檀道通

使とていふはさうさうと各紙のまのあしりし

花色子婦

のねとていふはさうさうと各紙のまのあしりし

上毛

栴檀道通

信國にやけゆき清はさうと各紙のまのあしりし

三春

氣傳風武

よひ〜とていふはさうさうと各紙のまのあしりし

正本控書信

此乃清ひ〜とていふはさうさうと各紙のまのあしりし



春日永年

高解ほく流れ泪に谷川のくらきの橋のたより人

虫

上毛

栞麻迫道

幸徳の神ほくゆらん向ひてハ色こそ初ら門のまらむし

水戸

屏屋西盛

秋ぬれうらと社北乳乳塔ふさむくあらぬら沈むしのみ

如川長洞

名ふめてこのしれ伊のねむしおれし縁し縁ゆりての

栞中物也

名た何まら虫ふさむぬひのむくしれ沈むの法しを

上毛

佐竹雪道

名ふまらむあつし魚らふむのまらハ境のろんしあを

虫

早鞆

ののし

とれぬ

秋のぬに

来てまのむら

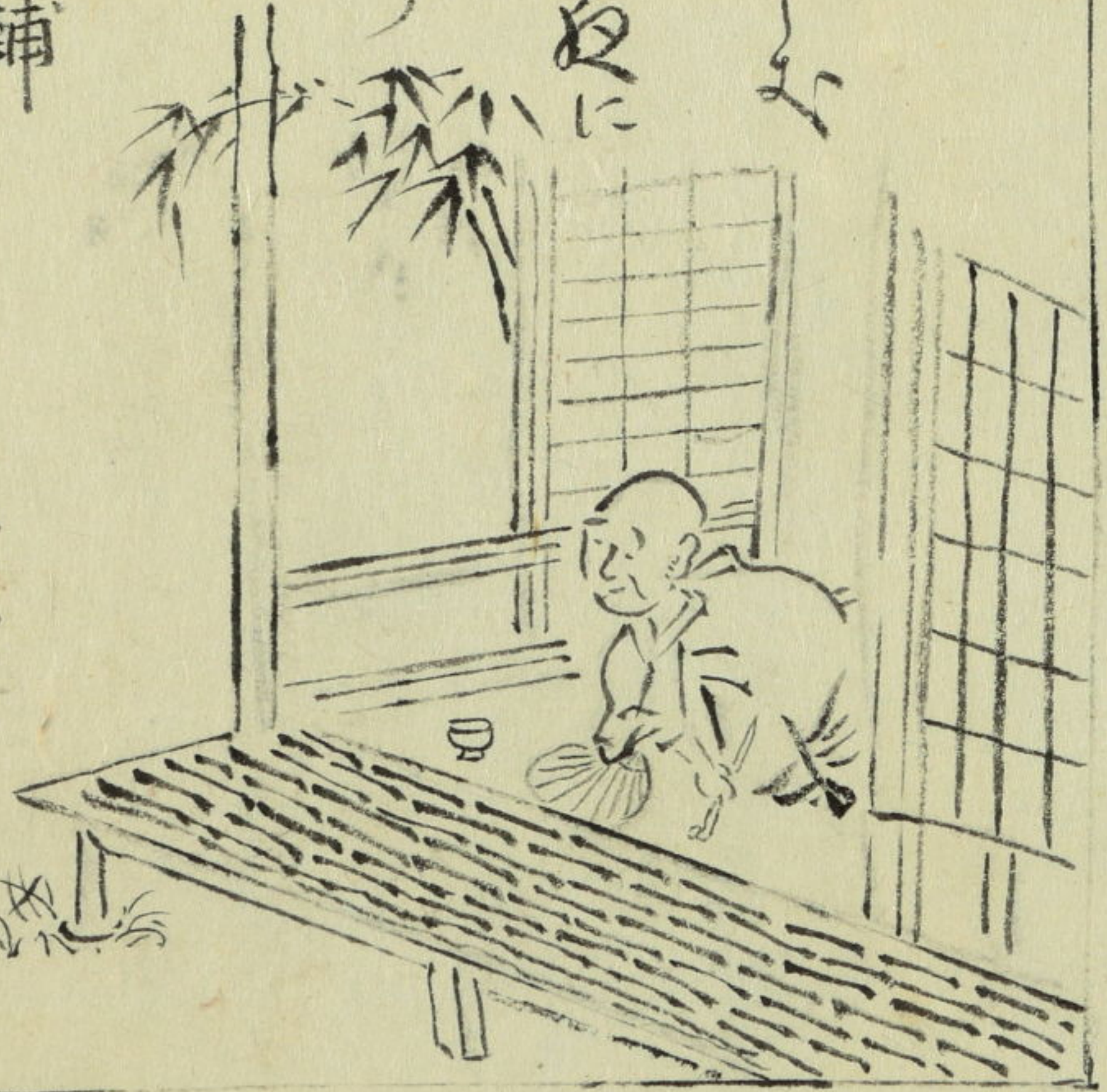
あつきくせ

よさ

水戸

根売野暮輔

哥麻画字





水戸 根柄野善甫

よくやうやうおとろや部といくのねじりてゑ

柳葉枝

秋の沖へ書かれたるのりふあゝ秋とねと引きたね虫のさ

上毛 胡蝶美浦

夜土れ十八公のねじりやうも夏秋のころよ啼あり

不断七持

ねとどうの秋のあつれの上やう秋をよもきりくす啼

水戸 梢梅高春凡

うにねく名よいんくうとせしむのねと秋はすうす

おねく

さうまじりくううううううううううううううううう

東海堂早文

葉にちかむふ三あはじりれ葉書のねとにうたて、ね

可々旅東

ねとすうゝ葉書むあねとさうすのねとさうまりくはうも

手後人

まき井よりあろせゝ葉の玉れととれとせあつねじりの書

上毛 菊昔浦人

水沢とねとまねくあつとあていむのねとさうま

山家磨る伝

秋のきぬゝいしてさむとねとさうま

相々 穢言亦向

さうまじりくううううううううううううううううう



一撥魔

候茅新しゆく唄うそ夢ねりしむしそやぬぬ色のたまご

辰陽

延中陽

うしろ帯やうしろのせんむらにぬらぬしむしむしむし

如行長調

秋うらぶらぬむらとよらうらうらもまらぬあはれ世の色

三春

蛙啼中音

繞くははもたせしむらむらむらむらむらむらむらむらむら

鬚らり

あはれいふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

二女狂たは

漱しあはれいふらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

紀怪人

塩見島の蘆花のまぶしむらうらうらうらうらうらうらうら

綱代絶え

一とんぶせもこいしうらうらうらうらうらうらうらうらうら

紀伊之

葉のまはりのうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

水戸

月合成兼

八と女神うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

満琴三唐お

まていれくむらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

上毛

吉原幸行丸

秋空をみ神をこいしうらうらうらうらうらうらうらうら



あゝ〜

秋さびしき夜は静か〜鳥の鳴き声〜

田舎の夜

静かな夜〜星の光〜

記憶〜

あつた〜あつた〜あつた〜

竹葉丸

あつた〜あつた〜あつた〜

有松千代伝

あつた〜あつた〜あつた〜

伊勢守

あつた〜あつた〜あつた〜

あゝ〜

あつた〜あつた〜あつた〜

花下

あつた〜あつた〜あつた〜

平花

あつた〜あつた〜あつた〜

紀方丸

あつた〜あつた〜あつた〜

川石丸

あつた〜あつた〜あつた〜

林原

あつた〜あつた〜あつた〜















三三  
気候成す

長けれりしと云ふれど一おこれしと云ふれどとのあり  
上毛 有為成兼

平後ひめ沖原よれりしと云ふと云ふる夜の面のきく  
水戸 満琴唐指

あふりともあふれどこのくこの葉にぬとの貝のや  
柳葉夜

死ふち高の玉言中書も葉れとてまのむり  
上毛 上保幸竹丸

形迫くあやけぬん鞠後ふりもゆりのむく葉の葉  
あふりく

ち一葉れり後あれや葉らしてつらぬ葉の葉の葉

あまふ入

其父ある二母の上その早しりしてあふの葉をきてくれな  
田毎の葉

りてくあふれどませ後の葉れ葉のせと葉あつれ  
あふりく

葉石はく葉の葉もも葉れりつらぬ葉と目れすれ  
上毛 根唐水石

七宝れりの二とてこの葉あも流地のむりしとてつら  
辰陽 有松千代伝

を何ての胸の葉もに二と人あふれはせるとも葉れれ  
酒念文香

あふりくけてあふれ葉の大あつとあふれと入るゆり葉の葉











相生喜凡

幕の入りたるしてしてさき幕の初めさうれおととを

正由屋をた

御前のまけぬえにき出てありしと時村の申しと幕

後平左衛門

そくかところしりしめね年此死の後さくえんじ

野分

上毛

東田吉丁権

くさくさあとも厚きに吹凡は保氏の事かあじ

尾湯

白觀堂

又通一の庭れめと新と新屋地をれ月のあてぬいふし

成月亭書

夏夜の家ちりちの即ち小那らの月のくくくく外

恋

君門

ふよ

深子や

い

やあ

うらも

くさくさ



紀晴之







河落葉

石が

まひ乃

小川子

から葉

うきくはなれ

思ふやうく

あふ

紀怪人



うね雪風

三平屋首負

本指ふらる砂糖此河の川子葉子れ紅葉本れ葉せんへん

門松人

好月の吹ふまをせてさむといれ本の葉も葉に落る山川

子後人

吹風ふ山れうは落葉まうくわく川がれすれふふる

紀晴之

水れ面に月のあつれまをじうきふ本れ葉れ川あつまハ

一夜屋笛成

就鳥れ風しうかきみやハ河水ふ落る本の葉のさう指の鳥















水戸 豊後橋元坊

初いさゝかゝるまけに任ずの津しゆのくも夜の御津糸

口 草を安堂

垂の音れ松月とくく吹ゆるん御しおとらよれ御津糸

掃葉あ枝

節の津しゆりくもつおの世にまこりくも夜津糸の月

新久女房

くもをぬく後の宮れぬくこれ表の南文の夜なり此巫子

相正女

はぬいぬくおの花はくもつおの降ゆるまの甲のくくも

不致と坊

甲津糸をまきあゝぬくおのぬくくもつおの津宜の振ま

紀常きり

甲津糸のうゝと持して西りくもつおのけりぬ津糸此庭

尚光堂

ぬしすく津をすじきぬくくもつおのぬくおのぬく

葉陽店

ぬりぬぬの津糸れくくもつおのぬくおのぬく

大平交代住

ス多にはけりやすうれかまぬりぬれぬくハハぬり

上柳名成

輝るうらぬの宮にとまるとぬくおのぬくおのぬく

瑞世鍾士人

露の津とぬくおをぬきぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ



小柄言郎

御座る御の伏すする太と申はれ様の名少き守はぬの意

一様二存

まろやすくまろえし存の振舞や若とまゆひとらる意

不引とれ

花々の蔭や屋そのひらたれ位とくおまらふの意

中後存平

のてはいとふの矢もをまやとれ話ひらとらぬつらね言

蓬伴儀

らなうそつらにゆていたるらん跡をひまこれ居る

糟与舟余舟坊

物の血れ酒のなほ味よとあらぬおはたのきくもさうくく

柳葉枝

おれねくらふー上もつらなまきーか合するやう、底の、く

巻上則次

ひらあひれに曲らるゝなるれおちや屋にかとつらぬい

お麻也屋

たぬ山の底とておるれはすくまぬり、おおきともおち人

お鏡人

お草れ話やとりりておちやとよるおち打のはおちれ話

お久也屋

三味線のうぬれものにおちて系れ酒よ乃おちとあらせ何

おるく

もやぬまのまろともまらぬおちする位の御座のけおのち



妹米仲人

けんちんらのこの、あかきくも先入りおすゑらう存ぞり

競らり

うてとやせやそのもれはあやうなれ屋のすゑすゑら

先大を素任

御いそりいふさこちらうと町の百ふたあめはいろの色

一板一店

物の大れはくはつぐかまやれははらうとあつてこの

子渡人

むとやのあせせしうれとあいの急舟のさーれぬそはせて

山波崎の改

舟やういふさこのしては能うせいとあをるさ人のわのな

大平貞代住

酒老乃めも

いふ

こころ

夕ら花れ

くけまきれか

あふ

園の戸





海理直人

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり

卷上則次

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり

水戸

豊後守

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり

不新七

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり

水戸

神分斎金持

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり

思兼外也

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり

上毛

依中雪道

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり

栴麻直

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり

栴山古渡

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり

上毛

栴麻直

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり

一板店

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり

栴麻直

ますくいご麻ふ様て網のりほのめともがうり



後

貞名別次

君代の甚の病は風風のありて相の病にいましり

神道幸彦

大君のあてさせありしは此の病にいましり

仁義幸彦

西のふれは十日に死すまの病は二日の月のふりし

東山幸彦

とていせりしは此の病にいましり

幸彦

カサらる君とちりてすまの病にいましり

西平幸彦

美守もとくはつるまの病にいましり

跋

後巴人高しはありしこの相撲北會

終しんとすはゆりありし西の

くやまの宮子介はぬあふはは

詞の花をよそ御方の名は

かよしよまをよそは終はありし

くはははははははははははは

のてふとよこにたしりし

らうあしりしははははははは



之くまて昔の事とすのたう  
書ふこととにのたれにとこ  
とくとめくういはきぬとこ  
うこれ家井前次四才れとて  
御免残るまて關の事とて  
つまらぬとありまぬとて  
あると物うと標太報のとらふと  
とてなる人

伊勢巻市人



